



学内広報

No.1322

2005.10.26
東京大学広報委員会



東京大学総長賞記念品（3ページに関連記事）

CONTENTS

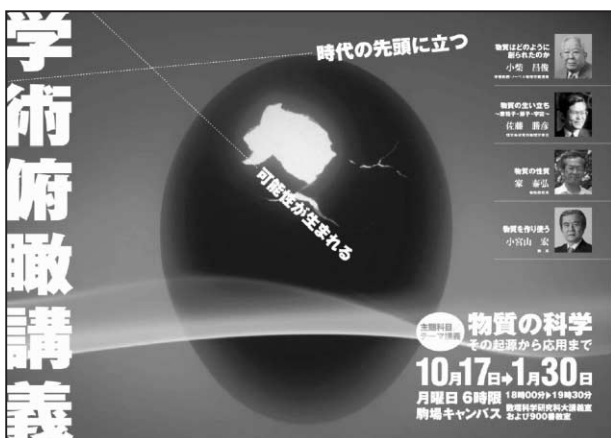
特別記事	
学術俯瞰講義スタート！	2
平成17年度第1回東京大学総長賞	4
部局ニュース	6
EUシンポジウム「EU憲法条約とヨーロッパ政体の将来像」開催される、初めての企画—キャリア講演会、玉原国際セミナーハウスで高校生のための現代数学講座を開催、医科学研究所で慰霊祭行われる、「東京大学教育用計算機システム」が情報化促進貢献情報処理システム表彰を受賞	
掲示板	10
水上運動会・講習会のお知らせ、平成18年度東京大学基金による国際交流助成事業募集、ユネスコ大学生交流プログラム公開講演会・シンポジウム—科学を通し	

て考える宇宙・地球・愛一、第2回愛知演習林シンポジウム—緑のダム研究の最前線と市民・行政・研究者の協働—、東洋文化研究所シンポジウム「アジア古籍保全講演会&ワークショップ」を開催、附属図書館特別展示「東大黎明期の学生たち—民約論と進化論のはざままで—」、生物生産工学研究センターシンポジウム開催、データベース定期講習会、外国人留学生のためのデータベース講習会

EVENT INFO	19
淡青評論 ナンバーワンでオンリーワン	20
コラム	
教育学部附属中等教育学校の石田阿紗乃さんが統計グラフコンクールで佳作を受賞！	
Flags運動紹介No.2	9
コミュニケーションセンターだよりNo.6	17
相撲部ベテル・マトウシュ主将、世界相撲選手権で奮戦！	18

学術俯瞰講義スタート！

教養学部前期課程の冬学期講義として、学術俯瞰講義「物質の科学」が10月17日（月）から開講された。同講義は、小柴昌俊特別栄誉教授、佐藤勝彦理学系研究科教授、家泰弘物性研究所教授、小宮山宏総長の4名により担当される。第1回は、「物質はどのように創られたのか」をテーマに小柴昌俊・特別栄誉教授により講義が行われ、約400名の学生が受講した。学術俯瞰講義の詳細については、以下のとおりである。



開講にあたり、報道関係者に向けて記者会見が行われた。画期的な講義の実施に対して報道陣からも活発な質問が飛んだ

学術俯瞰講義とは？

今日、学術の先端においては、旧来の学問領域の融合化により新たな学際領域が生まれるとともに、学問分野の細分化が進んできている。このようなダイナミックな学術の進展の結果として、ひとつひとつの先端学問分野が他の分野とどう繋がっていて、より広い学問領域の中でどのような位置にあるかを把握することが次第に難しくなっている。

「学術俯瞰講義」は、このような背景のもとで、小宮山総長の発案により平成17年度冬学期から創設される1、2年生向けの新しい講義である。初等中等教育において、入試を睨んだ“効率的な”学習を経て本学に入学してきた学生諸君は、とすると学問に対して狭い視野しか持たず、教養学部前期課程における勉学の意義を十分に理解しないままに、漠然と学業に取り組んでいる者もみられる。

「学術俯瞰講義」は、効率的な学習に慣れてきた1、2年生に「知」の大きな体系や構造を見せることにより、自らが現在学んでいる授業科目の意義や位置付けを認識させ、将来への展望を与えることによって学びへの動機を高めることを目的としている。当該学問分野において世界的に著名な本学の教員数名が分担して担当する。

平成18年度以降も、各学期に1ないし2の学術俯瞰講義を開講する予定である。

講義の公開

学術俯瞰講義は、前期課程教育の正規の講義として開講するものであり、他の講義科目と同様に原則として一般には公開しない。しかし、東京大学の教育事業を外部に発信することの重要性から、UT OCW（東京大学オープンコースウェア <http://ocw.u-tokyo.ac.jp/>）などを利用して電子メディアとして公開することを予定している。

平成17年度冬学期講義

「物質の科学—その起源から応用まで—」

現代の科学・技術は、素粒子から生命体に至るまで、あるいは個人から社会全体に至るまで、さまざまな階層における基礎的な現象、応用に関わる事柄を対象にしている。そして、対象とすべき現象・事柄は、科学・技術の発展にもなって増加の一途をたどっている。

この講義では、われわれの身の回りの全ての現象・事柄の根源にある「物質」をキーワードとして、物質の起源を探る学問分野、物質の性質を明らかにする学問分野、物質を工学的に利用する学問分野を繋いで、「物質の科学」を貫く学術の流れを解説する。この講義によって、学生が現代の「物質の科学」の全体像を掴み、さらには、前期課程で学んでいる授業科目の重要性や位置付けを再考し、将来の勉学に向けて展望を得ることができればよいと考えている。



講義DATA

単位	2単位
開講場所	数理科学研究科（大講義室）、 教養学部（900番教室） ※教員は数理科学研究科大講義室で講義するが、両講義室は双方向テレビ中継で結ばれる
開講時限	冬学期月曜日6時限（18:00～19:30） 1、2年生対象
成績評価	出席点とレポートによる

講義初日

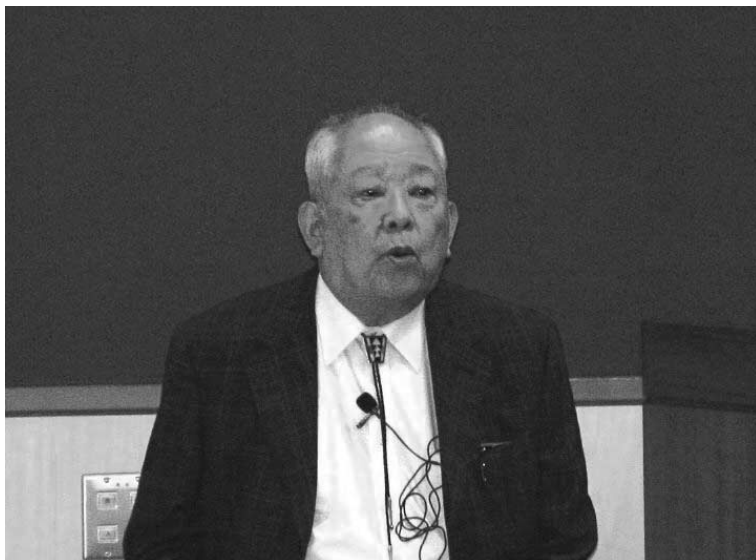
受付



大盛況



講義開始



中継

今回の講義ではICカードによる出欠席管理システムを採用している。また、双方向テレビシステムにより、数理科学研究科大講義室での講義を教養学部900番教室でも受講できる。900番教室からも質問することができるのだ

PROGRAM

900番教室

1. 「物質はどのように創られたのか」

小柴 昌俊 (特別栄誉教授・ノーベル物理学賞受賞)

第1回 10月17日 素粒子と宇宙

大きなスケールを追い続ける宇宙物理学と、逆に小さなスケールを追い求める素粒子物理学は、結局、同じ目的である“万物の究極理論”に迫りつつある。すでに自然界のすべての元素が何処でどのように創られたかも解っている。第1回の講義では全般的なこと、特に「ニュートリノ」と呼ばれる素粒子がどんな役割をはたしているのかについて解説する。



2. 「物質の生い立ち —素粒子、原子、宇宙—」 佐藤 勝彦 (大学院理学系研究科物理学専攻教授)

第2回 10月24日 私たちは物質世界をどのように認識してきたか—物質の階層構造—

第3回 10月31日 物質世界はどのように運動するのか—物理法則—

第4回 11月7日 時空—物質の演舞の舞台—

第5回 11月14日 宇宙の創生、進化—統一的自然観をめざして—

物質の生い立ちという観点から、素粒子から宇宙全体に至る物質の階層構造と運動法則、またその物質が運動する舞台としての時空、さらに物質と時空の起源、進化について解説する。

3. 「物質の性質」 家 泰弘 (物性研究所教授)

第6回 11月21日 物性物理学とは何をする学問か

第7回 11月28日 量子力学と人工構造物質—ハイテクと先端物理—

第8回 12月5日 原子を操る・量子を操る—ナノサイエンスと量子情報—

第9回 12月12日 多様な物質・多様な物性

物質の性質という観点から、さまざまな物質がさまざまな物理状態のもとで示す諸性質と、その基礎にある物理メカニズムとの関連を解説する。

4. 「物質を作り使う」 小宮山 宏 (総長)

第10回 12月19日 物性—プロセス—応用「半導体」

第11回 1月16日 物性—プロセス—応用「金属」

第12回 1月23日 物性—プロセス—応用「ソフトマター」

第13回 1月30日 地球環境を維持するためのプロセスと応用

物質の持つ性質は、それ自身簡単に使えるものではない。特に実際の用途に供するためには実験室内と異なる物質生成のプロセスが必要である。自己組織化などを用いるプロセスを紹介し、物性・プロセス・応用を考える。

平成17年度第1回東京大学総長賞



総長賞受賞者に贈られた記念品。銀杏をモチーフにデザインされた記念品はペーパーウェイトやカードホルダーとしても使用可能とのこと。その金色の輝きは受賞という荣誉にふさわしい独特の重厚感を醸し出している

平成17年度第1回学生表彰「東京大学総長賞」の受賞者が決定し、10月11日（火）に授与式が開催された。学生表彰「東京大学総長賞」は、本学学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「他の学生の範となった」「優れた評価を受けた」「優秀な成績を修めた」などの顕著な功績があった個人又は団体に総長が表彰を行うものであり、平成14年度から設けられている。

今年度第1回の「東京大学総長賞」には、個人9件、団体15件の合計24件の推薦があり、学生表彰選考委員会の慎重な審議の結果、下記のとおり、個人2件、団体3件の計5件が選考された。

式では、選考結果の報告、総長の挨拶のほか、各受賞者から今回の受賞に関するプレゼンテーションが行われ、成果の報告があった。

今回の授与式は、昨年に引き続いて駒場で開催したが、学部1、2年生が参観することができ、内容の濃いプレゼンテーションは次回以降の総長賞に向けての勉学や課外活動への意欲を高める刺激になったと思われる。また、授与式後の懇談会では淡青旗がホールにはためくなか、運動会応援部のリードによる「ただ一つ」が高らかに斉唱されるなど和やかに進められ、盛況のうちに終了した。

総長賞授与式次第

日時：10月11日（火）17:00～18:00
会場：大学院数理科学研究科大講義室
（駒場キャンパス）

奏楽 東京大学柏葉会合唱団
（平成16年度第2回受賞団体）合唱

<授与式>

- 選考結果報告 学生表彰選考委員会 岡村委員長
- 表彰状及び記念品の授与 総長 小宮山 宏
- 総長挨拶 総長 小宮山 宏
- 受賞者プレゼンテーション
- 記念撮影

<懇談会>

- 懇談
- 「ただ一つ」斉唱 運動会応援部
（平成14年第1回受賞団体）



授賞式では小宮山総長より表彰状と記念品が授与された。上の写真は「マンガ運動器のおはなし」学生制作委員会の代表が授与された瞬間

受賞者紹介

個人の部



宮本伸哉（医学系研究科博士課程3年）

宮本氏は親の運転する自転車に取り付けられた補助椅子に乘せられて怪我をする小児が急増していることの重大性にいち早く着目し、実態調査により学会、論文を始め広く社会に訴えてきた。この活動により、本問題はひとつの社会問題となり、各種報道機関に取り上げられるとともに、国会、都議会をはじめ多くの地方公共団体にて本問題と今後の対策に関して議論された。その結果、各地で警察による安全講習会や自治体によるキャンペーン活動等が行われることとなった。また、(財)製品安全協会の小児用自転車ヘルメットのSGマークの新たな認定や数社の自転車、小児用自転車ヘルメットの開発にも協力するなど、医療を通じて、広く社会に貢献したことが高く評価された。



筧 康明（学際情報学府博士課程2年）

工学（実世界指向情報環境、インタラクティブメディア）とメディアアートの二つの分野を軸に、技術と芸術の垣根を越えた研究活動を行っている。工学分野での主な活動は、インタラクティブな多人数用方向依存テーブル型ディスプレイ（Lumisight Table）の提案と実践である。ACM SIGGRAPHでのデモ展示やIEEE Computer Graphics and Applications Magazineに掲載され、各学会から技術系の論文賞などを受賞した。一方、メディアアートの分野でも、鏡に映る自分自身と対戦するインタラクティブ作品（through the looking glass）等を発表し、国内外での展示を通して大賞・作品賞などの受賞を含め高い評価を得た。

団体の部



東京大学運動会ヨット部

運動会ヨット部のJ24級クルーザーチーム「仰秀」は博多に於いて開催された2004年度J24級全日本選手権で健闘し、2005年9月にイギリス・ウェイマスで開催される世界選手権の出場権を獲得した。ヨット部が世界選手権に出場するのは99年イタリア・ジェノヴァ大会以来2度目の快挙であり、前回出場時はその国際的な活躍により運動会で最高の荣誉である奨励賞を受賞している。両選手権ともに東大「仰秀」は唯一の学生チームであり、社会人と互角の実力を持った世界選手権常連チームとして、その活躍が高く評価された。



東京大学アマチュア無線クラブ

東京大学アマチュア無線クラブは、国内外のアマチュア無線競技会（コンテスト）に参加し、好成績を挙げること目標としているサークルである。日本全国から2000以上の無線局が参加する「ALL JA」、「全市全郡」、「6m&Down」の三大コンテストにおいて常に上位に入賞しており、この5年間では優勝9回、準優勝3回の成績を残している。また、海外との国際通信コンテストでも5回の日本1位を獲得した。さらに、東京大学CubeSatプロジェクトなど、学内における無線を用いた研究に対し技術的援助を行っているほか、無線業務に関する各種ハードウェア・ソフトウェアの開発と一般への配布、中学・高校生を対象とした無線技術解説講座の開講や高校無線クラブとの交流など、学外に対しても幅広い活動を行い、無線通信技術の普及と向上に貢献していることが評価された。



「マンガ運動器のおはなし」学生制作委員会

WHO（世界保健機構）が正式に発足を宣言したThe Bone and Joint Decadeを日本では「運動器の10年」と称して様々な活動・事業を展開している。この一環として、運動器及び運動器の疾患・傷害の予防に関わる教育のため、教育学部4年生(当時)7名が協力企業の支援のもと、実際のストーリー構成・キャラクター作り・各種取材等の作業を1年半かけて行い『マンガ運動器のおはなし—大人も知らないからだの本』を制作した。これが全国の小学校等へ合計15万部無償配布され、運動器の正しい知識を啓発する活動・事業に貢献したことが高く評価された。

長して行われた。参加者からのアンケートには、「就職活動の苦労話、職選びの考え方、子育てと研究の体験談など、普段聞くことのできない貴重な話を聞くことができ、とても良かった。今後もこういう企画を行ってほしい。」など、好意的な意見が寄せられ、好評を得たようであった。

講演会終了後は農生協食堂に場所を変え、講演者を囲んで懇親会を行った。會田勝美研究科長の労いの言葉で始まり、和やかな雰囲気の時を過ごし、気が付けば生協食堂の使用時間も過ぎていた。最後は、講演を予定していたが急な業務のため講演できず、懇親会に駆け付けてくれた企業職員の言葉で会を締めくくった。

今回のキャリア講演会の運営においては、ジュニアT・Aに協力を求め、司会進行・受付等の業務に携わっていただいた。学生、教員、事務という三者で今回の企画を実行したということはとても有意義なことであったと思われる。来年は今回の経験を生かしてより良いものにしていきたいと考えている。

大学院数理科学研究科 玉原国際セミナーハウスで高校生のための 現代数学講座を開催

大学院数理科学研究科では、8月12日（金）、19日（金）、9月10日（土）、10月22日（土）の4日間東京大学玉原国際セミナーハウス（群馬県沼田市玉原高原）において「高校生のための現代数学講座」を開催した。



講義風景

この数学講座は、総長の提言による「地元との交流の必要性、特に中学生・高校生を対象に」を実践すべく、群馬県教育委員会及び群馬県立沼田高等学校の協力を得て、「数論と暗号」及び「確率の考え方」をテーマに開催された。各日とも約50名の高校生が大学側で用意したバスで玉原国際セミナーハウスに向かった。当初は緊張

した面持ちで講義を受けていたが、徐々にその緊張も解け質疑等も活発に行われた。数学の面白さ、難しさを十分体験できた有意義な数学講座であったとのアンケートが多数寄せられた。

来年度以降についても、高校生を対象に勉学意欲を高め、数学への関心を深めていただくために、数学講座をさらに充実させたいと計画している。

(HP：<http://tambara.ms.u-tokyo.ac.jp/>)



熱心に講義を静聴する高校生

医科学研究所 医科学研究所で慰霊祭行われる

医科学研究所では、同附属病院で亡くなられ、病理解剖させていただいた方々の御霊をお慰めするために、10月13日（木）13時30分から医科学研究所慰霊祭を挙行了。式は、参列者全員による黙祷に始まり、献体者御尊名の奉読の後、山本雅所長が「御霊に捧げることば」を述べた。続いて、御遺族及び医科学研究所教職員が献花を行い、最後に、岩本愛吉病院長から御遺族に対して感謝のことばがあり、14時過ぎに滞りなく終了した。



「御霊に捧げることば」を述べる山本所長



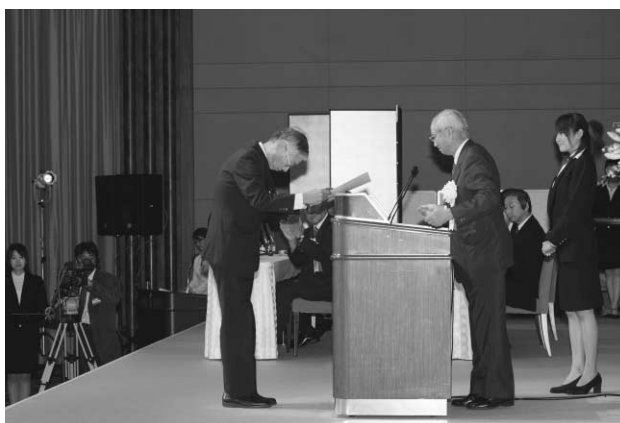
遺族に感謝の挨拶を述べる岩本病院長

情報基盤センター

「東京大学教育用計算機システム」が情報化促進貢献情報処理システム表彰を受賞

10月は情報化月間とされており、情報化月間推進会議を中核に、経済産業省、内閣府、総務省、財務省、文部科学省、国土交通省の連携のもと実施されている。昭和47年から実施されているもので、月間中には国民の間に情報化に対する正しい認識と理解を醸成することを目的として、広く国民を対象とした啓発・普及のための各種行事が行われている。

この情報化月間の冒頭に行われる情報化月間記念式典において、情報化の促進に多大な貢献をなしたと認められる「個人」、「企業等」及び情報化の進展に著しい効果をあげている「情報処理システム」を政府が選定し、表彰しており、情報基盤センター教育用計算機システムが「平成17年度情報化促進貢献情報処理システム」の表彰を受けた。

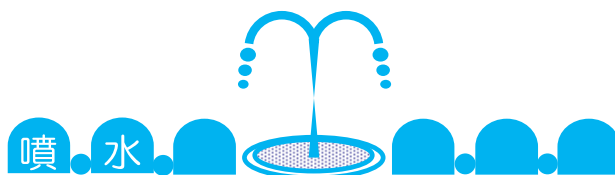


10月3日（月）に行われた記念式典の様子

表彰理由は

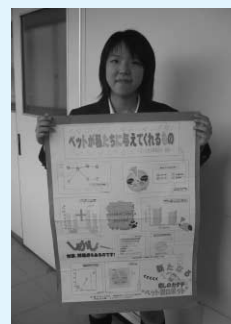
- ・教育・研究向けコンピュータ及びネットワーク設備を世界最大級のシンクライアントシステムで構築している。
 - ・複数のOSが混在する環境も実現可能であり、様々な教育カリキュラムに対応できる。
 - ・TCO削減、個人情報保護の観点から有効性は極めて高く、波及効果も大きい。
- などである。

10月3日（月）に行われた平成17年度情報化月間記念式典においては、各界関係者列席のもと、情報化月間推進会議議長による「情報化促進貢献情報処理システム」の表彰を受けた。



教育学部附属中等教育学校の石田阿紗乃さんが統計グラフコンクールで佳作を受賞！

教育学部附属中等教育学校2年の石田阿紗乃さんが、東京都統計グラフコンクールのパソコン統計グラフの部で佳作を受賞しました。このコンクールは年に1回開催されていて、今年で53回目を迎えるものです。大きく分けて、手書きポスター部門とパソコンを使用したポスター部門の2つがあります。手書きの部は、小



ポスターを作った石田阿紗乃さん

学校、中学校、高校それぞれの学校段階で各賞を競います。一方、パソコンの部は年齢に関係なく小学生から大人まで同じ「土俵」で競うものです。今回パソコンの部で入賞したのは大学生3作品と高校生6作品で、石田さんはただ1人の中学生でした。この部門は中学生のレベルよりも高いことが多いのでこの中で入選したのは快挙といえます。「ペットが私たちに与えてくれるもの～癒しのカタチの現在・未来～」というテーマでポスターを作成した石田さんは「また来年もこのコンクールに応募したい。」と話しています。

（教育学部附属中等教育学校 細矢和博）

ア式蹴球部

我々東大ア式蹴球部は本郷地区御殿下グラウンドで週5日の練習に取り組んでいます。昨年、東京都3部リーグ2位で2部への昇格を果たし、今年は2部優勝での1部昇格を目指してきましたが3勝3分け1敗で8チーム中4位という成績で、秋季リーグを終え昇格の可能性を残したものの、厳しい状況にあります。

<新チームスタート！>

今年の好成績はもちろん部員全員で勝ち取ったものですが、やはり様々な局面での4年生のリーダーシップに支えられてきました。秋季リーグの終了を以って4年生は引退し、新たなチームとして再出発しました。しかし、新たなチームといってもやることは今までと変わりません。部員一人一人が向上心を持って練習に臨み、そしてその成果を秋季リーグで残すことです。

<より強いチームへ>

三年前から鈴木コーチの下で練習に励んでいます、「まず自分のことから」というのがコーチの一貫した指導です。例えばチームメイトに「ああしろ」などと要求するのではなく、まず自分で何かできることが無かったかを問いかける姿勢の事です。サッカーはチームスポーツなので個人のミスも得点もチームとしてのものです。ピッチ上でボールに直接関与していない選手にもすべきことはある、だから、他人を非難したり自分以外の要素に原因を求めるな、というのがコーチの指導方針です。他人のせいにするなということですが、それは当たり前に見えて難しいことです。いわゆる「いいチーム」はそこがしっかりしていて、試合中他人を非難する声を聞くことは滅多にありません。そうしたチームは団結していて非常に強いです。我々が目指しているのはそうしたチームであり、それに少しでも近づけるようこれから日々努力を重ねていきたいと思えます。応援の程よろしくおねがいします。

(ア式蹴球部 池田 亮一)



★★DATA★★

人数:男子44名 女子7名
 練習場所:御殿下グラウンド
 練習日時:火・水・木:17時～、土・日:12時～
 今年の戦績:
 天皇杯予選兼総理大臣杯都学連予選4位
 総理大臣杯予選都県代表決定戦を勝ち抜き関東代表決定戦出場
 東京地区国公立大学体育大会3位
 京都大学定期戦1-0で勝利
 秋季リーグ2部4位(3勝3分1敗)
 HP: <http://www.tcn-catv.ne.jp/~today-soccer/>

漕艇部

私達漕艇部は全日本選手権エイトでの優勝を目的とした部活です。

エイトとは8人の漕手と1人のコックス(舵取りのこと)を乗せたボートでボート競技界の花形と言われています。過去、東京大学は全日本選手権エイトで18回もの優勝を経験しており、ボート界の最先端を進んでいました。しかし、ボートが高校生にも広まるにつれて推薦枠を確保している私立大学が頭角を現すように



なり、最近では上位を私立大学と社会人が独占している状態です。その中で入学試験を突破してきた者のみで構成された我が部は体力的・技術的に相当のハンディがあります。

現在、我が部は戸田オリンピックコース脇の艇庫(戸田橋艇庫)にて合宿生活をしており、合宿日数は年300日を超えています。平日は早朝練習をしてから大学へ通い、帰ってきてから再び練習、土日は終日練習という日々を送っています。そのように相当分の練習量を確保し、質をも追求することで私立大学・社会人と対等に戦える戦力を築き上げることに努めているのです。昨年は全日本大学選手権エイトで総合5位、国公立大学中1位という成績を収め、強豪私立大学と対等に戦える戦力になっていることが結果になって現れました。

10月初旬から新年度が始まり気持ちを新たにエイト優勝の目標に向け再スタートを切りました。毎年行われる一橋大学との対校戦である東商戦の全勝も視野に入れつつ日々邁進しています。(漕艇部 飯田 健太郎)

★★DATA★★

人数:男子55名、女子9名
 練習場所:戸田橋艇庫
 練習日時:火曜早朝から日曜午後まで
 年間予定:4月:新勸合同レガッタ、東商戦
 5月:京大戦(京都大学との対校戦)
 6月:松戸遠漕、全日本選手権
 8月:全日本大学選手権
 9月:全日本新人選手権
 12月:水上運動会

昨年の成績:

全日本選手権:男子舵手付きペア3位、男子舵手無しペア7位
 軽量級選手権:男子エイト4位
 全日本大学選手権:男子舵手付きペア6位、女子ダブルスカル7位、女子舵手無しペア7位
 平成16年度第1回総長賞受賞

HP:http://www2.odn.ne.jp/~today_rc/index.htm

連絡先:戸田橋艇庫(埼玉県戸田市)

TEL:048-441-5845

E-mail: today_rc@ams.odn.ne.jp

学生部

水上運動会・講習会のお知らせ

お知らせ

(財)東京大学運動会では、運動部の協力の下、様々なスポーツの大会や講習会を開催しています。これから開催される予定の行事をご案内します。皆様のご参加をお待ちしています。

水上運動会 (ボート)

埼玉県戸田市にあるオリンピックコースにて、ボートレースを行ないます。普段漕いだことのないボートに慣れ親しんでもらうとともに、戸田橋艇庫を皆さんに知ってもらいよい機会です。実際にボートに乗ってみると、ボートが水面を進む感覚は、陸上で見るよりも速く、とても気持ちがいいです。ぜひ、味わってみてください。



ボートレース、水面を疾漕!!

また、軽食や懇親会も用意していますので、部員と一緒に楽しみましょう。上位クルーには賞品を用意しています。仲間を募ってぜひご参加下さい。ボート部全員で待っています。

受付：10月31日 (月) ~

開催日：12月10日 (土)

(雨天中止)

場 所：戸田橋艇庫

参加費：1人500円

募集人数：120人(個人、団体でも参加可、運動会員以外の学内関係者も参加可)



乗船準備中、いざ漕ぎ出す

ダンス講習会

誰しも一度は憧れたことのある、社交ダンス。しかし、いざ習うとなるとそんな機会はほとんどありません。この講習会では、競技ダンス部の部員が、本当の基礎から丁寧に社交ダンスを指導します。他の参加者も初心者ばかりなので、どうぞ気楽にご参加ください。

開催日：12月18日 (日)

場 所：駒場第一体育館剣道場

参加費：300円

馬術講習会

馬のことを知り尽くした馬術部員が、2日間に渡って丁寧な指導をします。参加者は段階を踏んでかなり上達することが出来ます。しかも、場所が都内にもかかわらず参加費は破格の値段。特に毎回人気がある行事なので、参加申込はお早めどうぞ。

開催日：12月3日 (土)・4日 (日)

場 所：東京大学三鷹馬場

参加費：1,000円

●参加方法

参加申込は、

本郷：御殿下記念館モール階運動会窓口

駒場：アドミニストレーション棟8番窓口(課外活動係)で受け付けています。窓口には、申込書や行事要綱が置いてありますのでお気軽にお立ち寄りください。なお、詳しい地図はホームページをご参照ください。前号の学内広報(1321号)にも掲載されています。

(<http://www.undou-kai.com/soumu/contact.html>)

●問い合わせ先

各行事の詳しい情報は、下記アドレスの運動会HPや、構内の掲示板に貼られるポスターなどをご覧ください。学内広報でも随時お知らせしていきます。連絡先は、下記の通りです。

東京大学運動会総務部

TEL：03-5841-2510

E-mail：undoukai@undou-kai.com

HP：http://www.undou-kai.com/

研究協力部

平成18年度東京大学基金による 国際交流助成事業募集

募集

平成17年度をもって終了の予定であった下記3つの助成事業は、原資である東京大学学術研究奨励資金が東京大学基金に組み込まれたこととも合わせ、学内での調整の結果、平成18年度も下記要項のとおり募集することとなりました。ついては、申請される場合は、各事業の提出期限までに所属部局を通じ、研究協力部国際課まで必要書類を提出願います。

- 海外学術交流研究拠点設置・運営経費助成事業
- 東大シンポジウム開催経費助成事業
- ジョイント・フォーラム開催経費助成事業

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当係へお問い合わせください。

また、今回から「東大シンポジウム開催経費助成事業」及び「ジョイント・フォーラム開催経費助成事業」は、日本側の主要メンバーは本学の教員であれば、その所属部局が単独でも助成対象として認められることとなりましたので、留意願います。

下記のURLから「東京大学基金による国際交流助成事業」をクリックすると、各事業の申請書類をダウンロードできるページにジャンプします。

http://www.u-tokyo.ac.jp/res02/d03_05_j.html

平成18年度 東京大学基金による 海外学術交流拠点設置・運営経費助成募集要項

1. 趣旨

国際化の進展に伴い本学における教育・研究の一層の推進に寄与するため、海外での教育・研究の推進、当該国の学術団体・高等教育研究機関との間の学術交流の調整・推進、本学の教職員・学生等関係者に対する便宜供与などの目的をもった海外における学術交流の基地となる海外学術交流拠点（以下、「海外拠点」という。）の設置（事前調査を含む）及び運営に対して、必要な経費の一部を東京大学基金から助成するものである。

2. 応募資格

海外拠点設置（計画）の代表者である本学の教授又は助教授

3. 助成期間

3年以内（学術研究奨励資金による同名の助成を受けた期間を含める。また、昨年度に引き続き助成を希望する場合も、再度申請をするものとする。）

4. 補助の対象となる要件

- (1) 東京大学の国際戦略上、重要度が高いものであること。
- (2) 助成期間終了後の運営体制が検討されているものであること。

5. 助成経費

- (1) 海外拠点開設のための事前調査に係る経費（旅費、謝金等）
- (2) 海外拠点への教員の派遣旅費
- (3) 海外拠点運営経費（消耗品費、謝金、設備備品費、建物借料等執行可能なもの。）
 - (1) 及び(2)の場合の旅費は、本学から訪問先研究機関までの最も経済的な通常の経路及び方法による旅行に必要な往復航空賃（エコノミークラスのディスカウント運賃）、往復鉄道賃等（本学から最寄りの空港までとする）、滞在費（東京大学旅費規程による日当、宿泊料）及び日本国内空港施設使用料とする。

6. 助成額及び採択予定件数

1 海外拠点当たり、400万円程度を限度とし、採択件数は、3件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

別紙様式1（昨年度に引き続き助成を希望する場合は、別紙様式2）により、平成17年12月9日（金）までに、所属部局長を通じて総長あて提出すること。なお、各部局内における提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

8. 選考及び採否の通知等

選考は東京大学基金による国際交流助成専門委員会が行い、採否の結果は平成18年2月上旬頃までに所属部局長あて通知する。

なお、選考に当たって必要な場合は、ヒアリングを実施することもある。

9. 報告書の提出

別紙様式3により、平成19年4月末日までに、所属部局長を通じて総長あて提出すること。

（様式については、採択通知に添付する。）

10. 申請書等送付先

研究協力部国際課

平成18年度 東京大学基金による 東大シンポジウム開催経費助成募集要項

1. 趣 旨

学際的でやや規模の大きい国際研究集会を「東大シンポジウム」として開催することとし、そのために必要な経費の一部を東京大学基金から助成するものである。

2. 応募資格

本学の教授、助教授、講師又は助手とする。

3. 対象分野

人文、社会及び自然科学の全分野

4. 助成の対象となる要件

- (1) 学術的に重要かつ緊急度が高く、東京大学の名称を冠するにふさわしいものであること（ただし、学会主催による国際会議等を除く）。
- (2) 特定の主題について、内外の研究者が学術的発表及びそれに関する討議を行い、その分野の研究を増進することを目的とするものであること。
- (3) 日本側の主要メンバーは、本学教員であること。
- (4) 主催にかかる運営の学内体制が十分に確保されるものであること。
- (5) 平成18年度中に開催されるものであること。
- (6) 主たる経費の出途が東京大学基金によるものであること。

5. 助成の対象となる経費

- (1) 外国人招待講演者の旅費（日当・宿泊料を含む）並びに外国人一般参加者の滞在費（日当・宿泊料）
 - (2) 国内の学外招待講演者の旅費（日当・宿泊料を含む）
 - (3) 招待講演者の講演謝金（主として外国人参加者）
 - (4) シンポジウム開催に直接必要な印刷（製本）費、通信運搬費、会場借料等
- 注）本学の教員は招待講演者とみなされないので講演謝金は支給されない。また、原則として、旅費も支給されない。

6. 助成額及び採択予定件数

1件の助成額は、400万円程度を限度とし、採択件数は、3件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

開催責任者は、「平成18年度東大シンポジウム開催経費申請書」（別紙様式1）一部を、当該シンポジウ

ムの概要（サーキュラー等）の資料があれば添付し、所属部局長を通じて、平成17年12月9日（金）までに総長あて提出すること。なお、各部局内における提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

8. 選考方法及び採否の通知等

選考は東京大学基金による国際交流助成専門委員会が行い、採否の結果は平成18年2月上旬頃までに、開催責任者の所属部局長あて通知する。

9. 報告書の提出

開催責任者は、シンポジウム終了後1ヵ月以内に「平成18年度東大シンポジウム実施報告書」（別紙様式2）一部を所属部局長を通じ速やかに総長あて提出すること。（様式については採択通知に添付する。）

10. 申請書等送付先

研究協力部国際課

平成18年度 東京大学基金による ジョイント・フォーラム開催経費助成募集要項

1. 趣 旨

本学と海外の優れた大学等と共催で行われるフォーラム等の開催に必要な経費の一部を、東京大学基金から助成するものである。

2. 応募資格

ジョイント・フォーラム開催（計画）の代表者である本学の教授又は助教授とする。

3. 対象分野

人文、社会及び自然科学の全分野

4. 助成の対象となる要件

- (1) 海外の大学・研究機関等で開催されるものであること。
- (2) 学術的に重要かつ緊急度が高く、東京大学が海外の大学等と共催するにふさわしいものであること（ただし、学会主催による国際会議等を除く）。
- (3) 特定の主題について、内外の研究者が討議を行い、その分野の研究を増進することを目的とするものであること。
- (4) 日本側の主要メンバーは、本学教員であること。
- (5) 主催にかかる運営の学内体制が十分に確保されるものであること。
- (6) 平成18年度中に開催されるものであること。

5. 助成の対象となる経費

- (1) 本学教員の派遣旅費（日当、宿泊料を含む）
- (2) 学外招待講演者の旅費（日当、宿泊料を含む）
- (3) ジョイント・フォーラム開催に直接必要な経費（印刷（製本）費、通信運搬費、謝金、会場借料等執行可能なもの）

6. 助成額及び採択予定件数

1件の助成額は、200万円程度を限度とし、採択件数は、4件程度を予定している。

7. 申請手続及び提出期限

開催責任者は、「平成18年度ジョイント・フォーラム開催経費助成申請書」（別紙様式1）一部を、当該フォーラムの概要（サーキュラー等）の資料があれば添付し、所属部局長を通じて、平成17年12月9日（金）までに総長あて提出すること。なお、各部局内においての提出期限については、各部局事務担当に問い合わせること。

8. 選考方法及び採否の通知等

選考は東京大学基金による国際交流助成専門委員会が行い、採否の結果は平成18年2月上旬頃までに、開催責任者の所属部局長あて通知する。

9. 報告書の提出

開催責任者は、フォーラム終了後1ヵ月以内に「平成18年度ジョイント・フォーラム実施報告書」（別紙様式2）一部を、所属部局長を通じ速やかに総長あて提出すること。（様式については採択通知に添付する。）

10. 申請書等送付先

研究協力部国際課

大学院理学系研究科・理学部

ユネスコ大学生交流プログラム

公開講演会・シンポジウム

—科学を通して考える宇宙・地球・愛—

シンポジウム・講演会

このプログラムはUNESCOアジア文化センターと東京大学の共催により、中国・韓国の大学生を日本に招聘し、先進科学やユネスコ世界遺産に触れながら、また様々な学生との出会いを通して、我々の大切な「地球」について考えようとのプログラムです。このプログラムの一環として下記の通り公開講演会とシンポジウムを開催しますので皆さん奮ってご参加下さい

小柴昌俊特別荣誉教授講演会

テーマ：“Neutrino Astrophysics”

日時：11月9日（水）14:00～15:30（13:30開場）

場所：理学部1号館2階206号室

シンポジウム

日時：11月10日（木）14:00～17:30（13:30開場）

場所：理学部1号館2階206号室

講演者：

坂野 仁（大学院理学系研究科教授）

“Sense of smell in humans”

梅澤喜夫（大学院理学系研究科教授）

“Seeing what was unseen in biological systems”

村尾美緒（大学院理学系研究科助教授）

“Quantum information, universe, earth and love”

横山祐典（理学部講師）

“Past Global Climate Change”

金 容海（韓国科学技術院自然科学部名誉教授）

“Interesting story of naturally occurring neurotoxins”

●参加費：無料

●参加申込み・連絡先：

理学系研究科・理学部 国際交流室

理学部1号館1階101号室

E-mail：ilo@adm.s.u-tokyo.ac.jp

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/jimu/pages/0375/index.html>



これからの学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1323	11月2日（水）	11月9日（水）	11月15日（火）
1324	11月16日（水）	11月24日（木）	11月30日（水）
1325	学生生活実態調査特集号（予定）		
1326	12月7日（水）	12月14日（水）	12月20日（火）
1327	1月4日（水）	1月11日（水）	1月17日（火）

東洋文化研究所

東洋文化研究所シンポジウム「アジア古籍保全講演会&ワークショップ」を開催

シンポジウム・講演会

東洋文化研究所では、アジア古籍に携わる方や興味がある方を対象に、各分野の専門家を招き、アジア資料の劣化対策や保存、利用にまつわるシンポジウムを開催します。起こった損傷に対応するのではなく、環境管理によって劣化を未然に予防しようというテーマの講演や、貴重書の媒体変換の事例報告、現場の豊富な経験・知識を生かした保存と修復関連のワークショップを行います。皆様のご参加をお待ちしています。

開催日: 12月16日 (金)

場 所: 東洋文化研究所

内 容:

Aコース (講演・事例報告)

10:00~10:10

開会挨拶 田中明彦 (東洋文化研究所長)

10:10~14:15 (12:10~13:15休憩)

書籍の有害生物管理-I P Mを中心として-

木川りか (東京文化財研究所保存科学部主任研究官)

アジア古籍のための環境管理

稲葉政満 (東京藝術大学大学院美術研究科助教授)

国際連携漢籍資料庫の夢

-漢籍のデジタル化について-

丘山 新 (東洋文化研究所教授)

Bコース (ワークショップ)

14:30~16:30

①保存管理と補修計画

-アジア近現代資料を中心として-

小島浩之 (経済学部資料室助手)

②紙媒体資料の劣化と予防的保存手当て

木部 徹 ((有)資料保存器材)

③古文書古典籍の装幀形態と料紙及び修補作業

吉野敏武 (宮内庁書陵部修補係長)

定員: Aコース 60名

Bコース ①~③各20名

申込: 氏名・所属・ご希望のコース (AまたはB) を明記し、Eメールにてお申し込みください。Bコースご希望の方は、①~③から第1希望・第2希望を必ず1つずつご選択ください。

・申し込み先: 東洋文化研究所図書室宛

E-mail: lib-info@ioc.u-tokyo.ac.jp

・期限: 11月30日 (水) 必着

詳細については、東洋文化研究所図書室ホームページをご覧ください。

http://institute.ioc.u-tokyo.ac.jp/~library/news/asia_lecws.html

大学院農学生命科学研究科・農学部

第2回愛知演習林シンポジウムー緑のダム研究の最前線と市民・行政・研究者の協働ー

シンポジウム・講演会

愛知演習林では、以下の要領でシンポジウムを開催します。無料で、どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしています。

●開催趣旨

森林の緑のダム機能が社会的に大きな関心と呼んでおり、それに刺激されて森林水文研究も進んできています。その結果、これまで明らかになっていなかった森林の機能や、放置人工林での水の流れの実態が次々に明らかになってきています。

一方で、近年では行政や研究者だけでなく市民が主導で研究者や行政と協働し、森林の機能調査などを行う例が各地で見られます。

このような背景を踏まえ、本シンポジウムは、2004年に行われたシンポジウム「緑のダム研究の現状と将来展望」の続編として、研究者、政策立案・決定者、市民が集い、これらの論点について議論を尽くし、広範な分野にまたがる関係者間で最新の情報を共有し、今後の研究や社会のあり方を展望する場として開催します。

●主催: 大学院農学生命科学研究科附属愛知演習林

●共催:

科学技術振興事業団戦略的創造研究推進事業 (CREST)
「森林荒廃が洪水・河川環境に及ぼす影響の解明とモデル化」

日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト

「青の革命と水のガバナンス」

●日時: 平成17年1月28日 (土) 13:00~17:00

なお、1月29日 (日) には引き続き「森林水文学若手研究者の会」が開催されます。

●会場: 瀬戸蔵2階つばきホール (1月28日)

(名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅より徒歩5分・記念橋前・駐車場有料)

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/aichi/sympo2006.html>

附属図書館

附属図書館特別展示「東大黎明期の学生たち—民約論と進化論のはざままで—」

お知らせ

今年度の特別展示は、東大黎明期（明治初期）の学生たちの勉学風景を、当時使用した教科書、授業風景、成績簿、図書館風景他の資料や写真を展示解説することにより振り返ると共に、東大の歴史と当時の学生生活に思いをはせていただきます。

当時の政府が期待する官吏の道と、それに背を向ける在野の道とはざまで揺れ動いた学生たちの生き方を、「進化論」（ダーウィン、スペンサー）と「民約論」（ルソー）とに仮託して描き出します。

展示期間中には、月村辰雄教授による記念講演会も行います。ご期待ください。

特別展示

会期：11月16日（水）～30日（水） 土日、祝日も開催

時間：9:00～19:00（入館は18:30まで）

※11月24日（木）は17:00～18:00

会場：総合図書館3階ホール

記念講演会

講師：月村辰雄教授（大学院人文社会系研究科）

日時：11月24日（木）18:00～20:00

会場：総合図書館大会議室（西口玄関より入り、3階）

演題：「競争社会の開幕と東大黎明期の学生たち」

問い合わせ先：附属図書館情報サービス課専門員

TEL：03-5841-2640（内線22640）

平成十七年度
東京大学附属図書館特別展示（一般公開）
東大
黎明期の学生たち
—民約論と進化論のはざままで—
開催期間 11月16日（水）～30日（水） 土日祝日も開催
開催時間 9時～19時（入館は18時30分まで）
会場 総合図書館3階ホール
「競争社会の開幕と東大黎明期の学生たち」
講師 月村辰雄（東大大学院教授）
日時 11月24日（木）18時～20時
会場 総合図書館大会議室（参加費不要）
お問い合わせ先 附属図書館情報サービス課
〒113-0033 東京都文京区7-3-1 電話 03(5841)2640
URL: <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/tenjikai/index.html>

生物生産工学研究センター

生物生産工学研究センターシンポジウム開催

シンポジウム・講演会

生物生産工学研究センターでは、以下の要領でシンポジウムを開催します。参加費は無料で、参加登録も不要です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

『イネにおける病害抵抗性研究の現状と課題』

日時：12月12日（月）13:00～18:00

場所：弥生講堂一条ホール

（地下鉄南北線「東大前」下車徒歩1分；地下鉄千代田線「根津」下車徒歩7分）

主催：生物生産工学研究センター

共催：大学院農学生命科学研究科・農学部

（独）農業・生物系特定産業技術研究機構生物系特定産業技術研究支援センター

講演

「イネのエリシター受容体とシグナル伝達」

渋谷直人、賀来華江（明治大学農学部）

「低分子Gタンパク質Racを介したイネの耐病性シグナリング」

島本 功（奈良先端科学技術大学院大学）

「イネにおけるファイトアレキシン生合成とその制御機構」

山根久和（生物生産工学研究センター）

佐々武史、豊増知伸（山形大学農学部）

「エリシター処理により誘導されるEL5蛋白質の立体構造と機能」

加藤悦子、西澤洋子（（独）農業生物資源研究所）

「初期感染過程におけるイネ—いもち病菌相互作用の解析」

西村麻里江、加藤智朗、西澤洋子、林 長生、

南 栄一（（独）農業生物資源研究所）

「イネの誘導抵抗性について」

仲下英雄、安田美智子（理化学研究所）

「イネに対して病害抵抗性を誘導する薬剤（抵抗性誘導型農薬）の開発研究—プロバナゾールやセレプロシドを例として—」

梅村賢司、岩田道顕、古賀仁一郎（明治製菓）

問合せ先：生物生産工学研究センター 山根久和

TEL：03-5841-3067 FAX：03-5841-8030

E-mail：ayamane@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

詳細はホームページをご覧ください。

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/biotec-res-ctr/>

情報基盤センター データベース定期講習会

お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース定期講習会を実施します。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。どうぞお気軽にご参加ください。

また、ネイティブスピーカーの講師による英語編も好評実施中です。11月の英語編は、Introductory CourseとWeb of Science Courseです。留学生の方のご参加をお待ちしております。

●会場：総合図書館 1階 講習会コーナー

●定員：12名（先着順。予約不要です。会場に直接お越しください。）

●各コースの内容

<30分コース>

目的ごとにどんなデータベースがあるかを知りたい方、短時間で知識を得たい方には、こちらがおすすめです。

- ◆本をさがす編
- ◆雑誌をさがす編
- ◆新聞をさがす編
- ◆統計をさがす編

<1時間コース>

特定のデータベースについての解説や検索実習が中心の講習を受けたい方には、こちらがおすすめです。

- ◆OPAC入門編（Introductory Course）
- ◆FELIX編
- ◆Web of Science編（Web of Science Course）
- ◆電子ジャーナル編

●11月～12月の定期講習会スケジュール

月	火	水	木	金
	11/1 13:15-14:15 Introductory Course (英語編)	11/2	11/3	11/4 15:00-16:00 FELIX
11/7	11/8 17:00-17:30 本を さがす	11/9 15:00-16:00 Web of Science	11/10	11/11
11/14 15:00-15:30 雑誌を さがす	11/15	11/16 11:00-12:00 電子 ジャーナル	11/17	11/18 13:15-14:15 Web of Science Course (英語編)

月	火	水	木	金
11/21 11:00-12:00 OPAC入門	11/22	11/23	11/24	11/25
11/28	11/29	11/30	12/1 11:00-12:00 FELIX	12/2 17:00-17:30 新聞を さがす
12/5	12/6 11:00-12:00 Web of Science	12/7	12/8 15:00-15:30 統計を さがす	12/9
12/12 17:00-18:00 電子 ジャーナル	12/13	12/14 15:00-15:30 本を さがす	12/15	12/16
12/19	12/20 15:00-15:30 雑誌を さがす	12/21	12/22	12/23

●問い合わせ先

情報基盤センター学術情報リテラシー係
内線：22649 E-mail：literacy@lib.u-tokyo.ac.jp
詳細は、講習会ホームページをご覧ください。
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

訂正

「学内広報」No.1321において、誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

15ページ左段に掲載した写真のキャプションが、「ディオニュソス」「ペプロフォロス」となっていましたが、写真は2点とも「ディオニュソス」のものでした。

総合研究博物館にて特別展示を開催中の「ディオニュソス」と「ペプロフォロス」の写真を改めて掲載します。



ディオニュソス



ペプロフォロス

情報基盤センター

外国人留学生のためのデータベース講習会

お知らせ

情報基盤センターでは、韓国語・中国語による「外国人留学生のためのデータベース講習会」を以下のとおり開催します。

ネイティブスピーカーの講師が、本学で利用できる基本的なデータベース、レポートや論文の作成に欠かせないインターネットを利用した学術情報の収集方法などを紹介します。実際にパソコンを操作していただきながら実習形式で行います。

留学生のみなさんの積極的なご参加をお待ちしております。

●日時

韓国語編 11月16日(水) 14:50~16:20

中国語編 11月17日(木) 14:50~16:20

※ 両日とも講習内容は同じです。

●会場

総合図書館 1F 講習会コーナー

●申込方法

以下のサイトの講習会申込みフォームにてお申し込みください。

定員(12名)に達し次第、締め切らせていただきます。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/news/fs2005.html>

●内容

- ・OPAC, Book Contents等を利用した蔵書検索
- ・雑誌記事索引等を使った論文検索
- ・Web of Science等を使った海外の論文検索
- ・電子ジャーナルの使い方

などについて、実例に則して解説します。

●問い合わせ先

情報基盤センター学術情報リテラシー係

内線: 22649 E-mail: literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

なお、英語による講習会も定期的実施しています。詳細は以下のサイトをご覧ください。

「データベース定期講習会のお知らせ」(in English)

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/index-e.html>

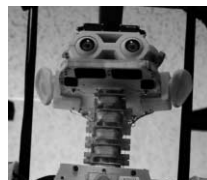
コミュニケーションセンターだより No.6

■柔軟脊椎筋骨格型ヒューマノイド「隼次」展示中!

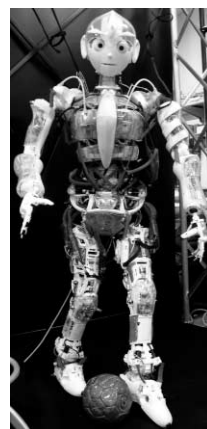
10月19日(水)にヒューマノイドロボット「隼次」くんが登場しました。このロボットは、情報システム工学研究科知能機械情報学専攻・工学部機械情報工学科稲葉・稲邑研究室)の水内郁夫先生が中心となって研究をされており、
◆脊椎を利用した全身行動
◆人間らしい動作
◆複雑な構造の多自由度ロボットの開発法・制御法などの、人間の身体構造に近い柔軟性と超多自由度を目指す研究のために開発されたヒューマノイドロボットです。



現在展示中の「隼次」くん



「隼次」くん



このロボットは人間のような身体構造を持ち、多自由度と可変柔軟性などに優れています。また、人間のような内骨格構造を筋によって駆動する筋骨格型で、これによりロボットの外側を柔らかくすることができるそうです。将来的には肉付けが可能で、アクチュエーターは人工筋への置き換えも想定されるそうです。

後継機の最新型ロボット「小太郎」は、愛・地球博にも展示され多くの人たちの注目を集めました。

残念ながら「小太郎」は研究に使っているためお借りすることはできませんでしたが、コミュニケーションセンターの展示では、小太郎も含めた研究の様子を紹介するビデオもPCで上映していますので、是非お立ち寄りください。

後継機の最新型ロボット「小太郎」くん

■Goodデザイン賞受賞 特別展示同時開催中!

東京大学コミュニケーションセンターの活動が、コミュニケーションデザイン部門でGoodデザイン賞を受賞しました(学内広報1319号のコミュニケーションセンターだよりNo. 3でノミネートについて紹介しています)。

現在、コンセプトなどをまとめたパネルやGoodデザイン賞出展時のディスプレイを再現していますのでこちらも是非ご覧ください。

(担当: 渉外本部 曾我)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

電話: 03-5841-1039

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html



相撲部ペテル・マトウシュ主将、 世界相撲選手権で奮戦！



10月16日に大阪府堺市で開催された第13回世界相撲選手権大会に、東大相撲部のペテル・マトウシュ主将がチェコ代表として出場し大いに奮戦、団体戦で母国チームを3位決定戦進出に導く原動力となりました。

母国チェコではバレーボールをやっていたというペテル選手は、工学部社会基盤工学科に留学のため来日した一昨年、同じ学生寮で友人となった相撲部員の誘いで相撲部の稽古場を訪れ、「いつのまにか部のホームページに部員として名前が載っていた」（本人談）。



以来、長身と足腰の良さを活かし、昨年秋には東日本学生相撲個人体重別選手権大会75kg未満級で第3位に入賞するなど、短期間でめきめき力をつけ、遂に個人戦軽量級（85kg未満）チェコ代表の座を獲得、三人制の団体戦でも先鋒として出場することになったのです。

このところ大相撲では琴欧州の活躍が話題を呼び、「東欧出身の長身瘦躯」という共通点から「東大の琴欧州」の異名を得たペテル選手、個人戦初戦は本家琴欧州の母国ブルガリア代表、この大会で第3位に入賞した強豪ゲオルグエヴ選手との対戦となり、小手投げ及ばず寄り倒され惜敗。



団体戦では中堅の選手が欠場したため、一人負ければチームも負けという厳しい条件下、初戦でニュージーランドのパイパー選手を寄り倒して世界選手権初勝利を飾ったものの、3回戦はブルガリア戦、ゲオルグエヴ選手への雪辱ならず、チームも敗れてしまいました。しかしブルガリアが勝ち進んだ（決勝で日本に1-2と惜敗し準優勝）ためチェコは敗者復活戦のチャンスを得、敗者復活1回戦で団体戦準優勝歴のある強豪フィンランドを撃破。メダルをかけた3位決定戦ではノルウェー先鋒のボーガ選手を押し込みながら一瞬足の運びが乱れて無念の逆転負けを喫しはしましたが、堂々世界第5位の座を占める大健闘でした。



東大相撲部は、前身となった「相撲同好会」が駒場キャンパスの片隅で活動を開始してから今秋でちょうど30年。世界の大舞台での主将の活躍が、節目の年に花を添えることになりました。

昨年のレギュラー陣が卒業で抜けたあと、団体戦では苦戦の続く今年の東大相撲部ですが、ペテル主将の活躍に大いに刺激され、他の部員たちの稽古にもいっそうの力がこもります。

（東京大学相撲部部長 新田一郎）

「噴水」のコーナーにご意見を！！

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただくコーナーとして「噴水」が設けられています。本学における教育・研究活動等に関する意見等をお寄せください。広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

【原稿の送付先】 東京大学総務部広報課 MAIL: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

【お問い合わせ】 TEL: 03-3811-3393 内線: 22031、82032

EVENT INFO

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
東文研シンポジウム 公共哲学・開発・環境：ケイバビリティの視点から — Call for Papers —	11月2日 (水) 13:00～	東洋文化研究所 大会議室3階	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
スケート講習会 ※1321号参照	11月2日 (水) 夜中～	高田馬場シチズンアイススケートリンク	東京大学運動会総務部 03-5841-2510 http://www.undou-kai.com/
シンポジウム和解のための歴史を求めて —ヨーロッパと東アジア	11月5日 (金) 13:00～	駒場キャンパス18号館ホール	大学院総合文化研究科地域文化研究専攻 http://ask.c.u-tokyo.ac.jp/academic_activity/sympo.html
2005年度数学公開講座「社会や自然のなかの解析学」	11月5日 (土) 13:30～	数理科学研究科大講義室	数理科学研究科・21世紀COEプログラム「科学技術への数学新展開拠点」 Mail: funaki@ms.u-tokyo.ac.jp http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/users/kokaikoz/kokaikoz2005.html
バスケットボール大会 ※1321号参照	11月6日 (日)	駒場第二体育館	東京大学運動会総務部 03-5841-2510 http://www.undou-kai.com/
東文研セミナー 「米・砂糖・コーヒーから見た現代アジア経済史」	11月7日 (月) 14:00～	東洋文化研究所3階大会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
東大シンポジウム「ゲノム全域エピジェネティクス」 (Genome-Wide Epigenetics 2005)	11月7日 (火) ～10日 (木)	山上会館大会議室	http://cb8.ar.a.u-tokyo.ac.jp/GWE2005/informationJ.html
ユネスコ国際交流プログラム講演会・シンポジウム ※13ページ参照	11月9日 (水) 10日 (木)	講演会：理学部化学館5階講義室 シンポジウム：物理講義室 (理学部4号館2階1220号室)	理学系研究科・理学部 国際交流室 理学部1号館1階101号室 03-5841-7630 (内線 27630) http://www.s.u-tokyo.ac.jp/jimu/pages/0375/index.html
東洋文化研究所定例研究会 北宋中期知識人の絵画表象—「陞陽五老図」を中心に	11月10日 (木) 14:00～	東洋文化研究所大会議室 (3階)	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
F&RICオープンフォーラム2005「知の融合と開放」	11月11日 (金) 13:00～	武田先端知ビル5階武田ホール	先端知機能材料デバイスラボラトリーズ http://sentanchi-lab.t.u-tokyo.ac.jp/
第8回理学部公開講演会「意外と身近な理学研究」 ※1320号参照	11月11日 (金) 18:00～	安田講堂	大学院理学系研究科庶務係 03-5841-7585 Mail: shomu@adm.s.u-tokyo.ac.jp http://www.s.u-tokyo.ac.jp/event/public-lecture8/
生産技術研究所 千葉実験所公開 ※1320号参照	11月11日 (金) 10:00～	生産技術研究所千葉実験所	生産技術研究所 043-251-8311 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/050912ChibaKoukai.html
国際シンポジウム「地域史の可能性を求めて—バルカンと東アジアの歴史教科書から」	11月12日 (土) 10:00～	駒場キャンパス18号館 1階ホール	東京大学駒場キャンパス14号館柴研究室内 「バルカン諸国歴史教科書の比較研究」事務局 03-5454-6225 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/balkans20051112.html
留学生のための地震防災セミナー (日本語コース)	11月12日 (土) 19日 (土)	地震研究所	地震研究所 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/yamaoka/eqseminar/
社研 人材ビジネス研究寄付研究部門シンポジウム「ヘルパーの能力開発とサービス提供責任者の役割—訪問介護サービス業の人材マネジメント—」	11月16日 (水) 14:30～	学会会分館	社会科学研究所 http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/jin'ai/1116.htm e-mail: hrm@iss.u-tokyo.ac.jp
史料展示会「東京大学の国宝・重文名品展」 ※1321号参照	11月18日 (金) 19日 (土)	史料編纂所二階	史料編纂所 03-5841-5997
第4回東京大学ホームカミングデイ ※1321号参照	11月19日 (土)	本郷キャンパス 及び駒場キャンパス	総務部渉外グループ 03-5841-1216 内線21216 http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/hod.html
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
21世紀COE ものづくり経営研究センター 「ものづくり寄席」	10月～3月	三菱ビルコンファレンススクエアエムプラス (東京駅丸の内南口)	ものづくり経営研究センター 03-5841-2272 http://www.ut-mmrc.jp/topics/yose.html
公開講座「高校生のための金曜特別講座」(冬学期) ※1319号参照	10月14日 (金) ～2月10日 (金)	教養学部11号館2階1106教室	教養学部社会連携委員会「公開講座」担当係 03-5454-6637 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005winter.html
「ディオニュソスとペプロフォロス—東京大学ソマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査の一成果」 ※1321号参照	10月15日 (土) ～11月13日 (日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
「重井陸夫博士コレクション ウニの分類学」展	10月15日 (土) ～4月16日 (日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
展覧会「form.raum.idee—デッサウのパウハウスとハレのブルク・ギービエンシュタイン美術デザイン大学、世界の現代デザインを切り開いた二つの美学校—」 ※1321号参照	10月29日 (土) ～12月9日 (金)	駒場博物館	大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 03-5454-6139
医学序論連続講座「医の原点」	11月1日 (火)～12月13日 (火) 毎週 火曜日 15:00～16:30	医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂	医学部教務係 03-5841-3308 http://www.m.u-tokyo.ac.jp/

ナンバーワンでオンリーワン

日本の大学をとりまく状況は厳しい。学生となるはずの子供が減っている。国の財政も破綻寸前だ。法人化後の交付金の減り方を見れば、その影響は歴然としている。国境を越えた遠隔教育も珍しくなくなった。欧米の大学の国外進出も進んでいる。東大といえど、厳しい競争的環境におかれている。

大学は社会の付託に応えなければならない。東大は、研究教育において成果を積み重ね、多くの人がナンバーワンと賞賛してくれるような大学になることによって期待に応えようとしている。

ヨーロッパの諸都市に大学が生まれて間もない頃にも、今日いうところのナンバーワン校があった。パリは神学の名声が高く、ヨーロッパ中から優秀な学徒が集まった。ボローニャは法学、モンペリエやサレルノは医学においてその名が轟いていた。

しかし、今や、パリに神学部はなく、リシュリュー時代のソルボンヌ聖堂は展示ギャラリーに変わっている。法学ではローマ法の伝統に代

わり英米法の重みが増し、医学研究、教育の中心もドイツを経て、新大陸に移っていった。ディシプリン自体の浮き沈みがある上、一つのディシプリンの中でも先端を走り続けることはたやすくはない。

一方、中世から続くイギリスの学寮制度は、その全人的教育において評価する人が今でも少なくない。フランスのグランゼコールは専門別のエリート教育で才能を育て、この日本でもその恩恵に与る大企業がでてきた。研究大学を生んだドイツは、大学の近代化をなしとげ、アメリカの大学はイギリス的なカレッジ制度の上に専門教育をうまく接合し、20世紀の大学モデルとなった。いずれも、それぞれの歴史的、文化的、社会的状況の中で模索を続け、現在も評価されうるユニークネスを勝ち得た。

多くの人は東大に世界のナンバーワンを目指して欲しいと期待しているし、それに答えなければいけないと思う。が、同時に、オンリーワンは長続きするという歴史の教訓にも学ぶべきことは多い。

岸田 省吾 (大学院工学系研究科)



(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1322 2005年10月26日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO